

在伯邦人殖民中、其所有土地が植いた、雲突く大樹の良材林の生波を見る迷ひを突破する文併し、百年成長後の良材を植はして居る人が、幾人あるであらうか。

人物を養成する事が、一番多く數いとされて居た。人物を養成する人は、一百年後の良材たる樹木を植ねようと志した。

今日開拓民第一世中、幾人が人物を養成し居た。幾人が人物を養成し居た。年後、樹木を栽培し居た。あらうか。

その難題に、各其子弟をよりよき人間へと養成は志して居る。樹木も、花としては咲めない樹木だが、日本殖民によつて南へ移ししなられた。それが、孰れは他人に譲る土地としても、百年後良材の樹木を、十株や五十株栽培する事は不可能とせぬ仕事であらう。それをやつて居る人が、五千人である。家庭の地主中幾人であるであらう。

車が動かす、三分車窓の印度流にも數派に分けて見ねば右側高く山手に、バイオニア大樹の列が繁茂して居る。如きも一種の神仙で、更に舊約聖書などに現はれてる豫言者等の人を知らず、如何に優美に思ひ或る意味に於ける仙とみてよいのは少しかい話なの。

心を懐かしむ。二十年後、或は三十年四十年後、諸君の栽培して居る何十万の珈琲が、枯死してしまひ、あの大樹を植ねおいた人の心を懐かしむ。

これは邪徑に入りやすく、うま

いのちから、仙から佛に入る

世は人間の上等のところ貴族豪のやうなものゝ家に生れるか

そのものぢやの、かういふ危険な魔境が説明してあるから心ある

人は一讀しておくもよからぬ

だらうか。

煙は荒廢し禿土地にとならない

だらうか。

聖の國に移り住む人よ

は空化の如く不生不滅なもの

は空化の如く不生不滅の身





